

西緑地が楽しくなる本

『野鳥記』

平野伸明 / 著 福音館書店



畑の脇を歩いていたら私の目の端に、オレンジ色がちらっと見えて飛び去って行きました。あれは・・・ジョウビタキ？こちらでユズの実をつづいているのは、ヒヨドリ。木々が葉を落としている今は、鳥の姿を見つけやすいのがうれしいです。

『野鳥記』を開いてみました。ヒヨドリがいろいろな実を食べている写真が並んでいます。センダン、ネズミモチ、エンジュ、、、実にさまざまなものを食べています。ヒヨドリのグルメ度にびっくり。ページをめくると糞の写真。食べた実の種はちゃんと糞の中に出てきて、鳥が種の運搬者であることが良くわかります。

『野鳥記』に出てくる鳥は珍しい鳥たちではなく、近所でふつうにみられる鳥がほとんどです。きっと見ているのに見過ごしている鳥たちの生態を、著者はていねいな観察と、時には巣の中に仕掛けたカメラなどの秘密兵器で私たちにを見せてくれます。洞の中から押しあいへし合いしながら外をのぞくアオバズクのやんちゃ兄弟の写真など、うちの子どもたちの小さいころを思い出して思わず笑ってしまいます。たわわになった柿の実が食べつくされるまでに訪れた鳥たちの記録写真では、甘い柿の実がこんなにも多くの鳥たちに好かれていることを改めて感じました。

好きな時に好きなページを開いて楽しむ、そんな読み方のできる本です。読んでいるうちに鳥の見方が変わってきている自分に気づくでしょう。

(小川)